

胎の児も日傘に入れて産月女	原田 晔
「いのち」を守る母の本能が、ひしと伝わる句ですが、暑いのに出歩かんでもいいのね。滑稽俳句を投函するためなら仕方ないか。	
久しぶり名前出ぬままビール干す	倉方 稔
相手も同様に、こちらの名前を思い出せないかも知れぬぞ…。以前に頂いたとは思いますが、お名刺を。私も以前に頂いたと思いますが…。	
今時のエコには非ず羽抜鶏	守屋八郎
羽抜鶏は秋になれば生えてくるからいいなあ。人間はそうはゆかん。頭髮はクールビズで、「歯抜け鶏」、おまけに「エコ」じゃなくて「エゴ」。	
前列で睡眠学習夏期講座	土居忠行
今日のテーマは睡眠の効用。眠りたいときに遠慮せずに眠るのが肝心。但し、肝心なときに眠ってはいんかぞ。前列の人、起きなさいよ。	
梅雨晴間昨日六尺今日越中	小杉 隆
六尺も越中も、今の人には分からないだろうね。六尺も越中も、「白布」で「禪」の一種なんだが、「禪」が分からん。「猿股」なら分かるかな。	
うしろから影ついて行く夏遍路	板倉肱泉
写生句だが、さまざまに想像できるね。おそらくは弘法大師。同行二人だからさ。「同行のひとり影の夏遍路」。	

今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

水虫にセクハラされてお嬢さん ・・・根絶やしにせむオスの菌ども	横山喜三郎
借財はなくて咲かせり小判草 ・・・この家の主に夜逃げの噂	三木蒼生
男には男の弱み蟻地獄 ・・・凹んだところが好きで墮ちるよ	白井道義
道説いて道にはづる道おしえ ・・・反面教師虫にもあれば	下嶋四万歩
飼はれたる金魚見せ場を心得て ・・・腰のあたりを微妙にゆらす	塩川雄三
ふりやうで不倫とわかる金魚の尾 ・・・目ざとく応え一尾の出目金	小林英昭
父の日のスネをかじってプレゼント ・・・齧られながら嬉しいものよ	久我正明
紫陽花のどの顔も酔ひ抜けきらず ・・・迎え酒めく五月雨を浴ぶ	金澤 健
兵隊の星の一つが流れけり ・・・一兵卒の大事な襟章	氏家頼一
デコポンを胸につけたか夏娘 ・・・味見はできぬ青山桂一	青山桂一
明らかに名前負けして小判草 ・・・地方都市にも金座や銀座	麻生やよび
絵日記も西瓜のなくば寂しかり ・・・金魚と捕虫網も欲しいね	有富洋二
電話してケータイ探す土用凧 ・・・私は此処と即座に名乗る	宇井偉郎

今月の滑稽句

枯れ初めは糝粉細工の小梔子 絶え間なき右折左折で瀧行けり	青山桂一 青山桂一
【佳作】つばめつばめ仮設住宅建つ丘に 緑蔭や不要な客の放射線 梅雨間に鬢脱ぎたるクールビズ	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
若沖のモデルには無理羽抜鳥 濫蓄の挙句草笛音の出ず	麻生やよひ 麻生やよひ
【佳作】似たような事があつたな昼寝覚 どうかなさいましたか夜の蜘蛛追う 不意をつかれてレモンスカッシュに噎せる	足立淑子 足立淑子 足立淑子
炎天に思案の種も忘れ去り 朝顔に機嫌伺ふご機嫌さ	有富洋二 有富洋二
体温を確かめてみるこの暑さ 節電にしやしやり出でたる扇風機	有吉堅二 有吉堅二 有吉堅二
【佳作】唾蝉も仲間のつもり蝉時雨	
【佳作】禁煙とは名のみ亭主に蚊も寄らぬ やぶっ蚊め我が女房に接近す	安藤淑子 安藤淑子
潮鳴りや巖に人魚の麦藁帽	飯塚ひろし
【佳作】冷房中縄文人の深眠り 冷奴老い放題に老いてやる	飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】夏帽子後る姿のくびれかな ハンドルは友にバトンやビール干す 山清水ついでに顔もふりにけり	井口夏子 井口夏子 井口夏子
【佳作】幽霊もフラを踊るや熱帯夜 十一面観音と睨めっこ多勢に無勢なり	池田亮二 池田亮二
紫蘇ドロの食べ残してふ葉味	石川節子
【佳作】夜濯ぎは洗濯機まかせ夜遊びに	石川節子
洗濯機の音に目覚める昼寝かな 象の鼻夕焼け高く吸ひ込みて	板倉肱泉 板倉肱泉
大戦もアニメの子等と門火焚く	伊地知寛
【佳作】よく見ても足に遅速のない百足 冷房を今年はずけぬ釣忍	伊地知寛 伊地知寛
【佳作】片仮名でしゃべる娘たちの梅雨晴間 両方の酔い持て余す舟遊び クールビズ長袖者の寄る句会	伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】断崖に誰か来るかと百合の花 団塊の世代退職夏落葉 節電と筋力UP初団扇	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】豪雨でも梅雨前線と言われて 燕の巣パーキング奥女子トイレ 成長し親待つ燕口開けず	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
夏期手当半値八掛二割引 落蝉やピンピンコロリ恙無し	宇井偉郎 宇井偉郎
空梅雨と聞きしに車輛を流しをり 手鏡に朝化粧する冷房車	宇佐美徹郎 宇佐美徹郎
【佳作】顔跨ぎ砂蹴って行く水着かな	宇佐美徹郎
母屋より高きに咲いて凌霄花 宿題を棚経僧にして貰ふ	氏家頼一 氏家頼一
上棟の遅参のビール生ぬるし	越前春生

今月の特選句・秀逸句」 / 「今月の滑稽句」

ラフギール蛇が恐くて踏み込めず 【佳作】職退きて一汁一菜心太	越前春生 越前春生
炎昼や阿吽の呼吸調はず 雌の蚊めわが細胞の吸血鬼 【佳作】シーベルト気にしつ落ちし沙羅の花	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】切売りの西瓜触診不要です 夜つびとい月下美人に見蕩れけり ぼうぶらを湧かせぬための目高かな	笠 政人 笠 政人 笠 政人
緑深しオランダお稲の往きし道 真珠貝珠抜き後はコロッケに 【佳作】ままごとのおやつはしゃしゃぶぐいの実だった	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】四葩より神が手をかけ額の花 他人めく香水は吾が旅土産 天然の初鮎の香と同じなり	加藤 賢 加藤 賢 加藤 賢
草茂り墓地にみなぎる生気かな 夏シャツの神主海を開きけり	金澤 健 金澤 健
【佳作】騙されて賢くなりぬ蛇毒 梅雨晴や庭も庭師も坊主刈り 各国の王妃王女はバラの名に	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】巨人勝ちさうなナイターテレビ切る 新入れ歯おそろおそろと冷奴	川高郷之助 川高郷之助
雲の峰天井を突くラーメン屋 青梅や黄梅赤梅出世梅	久我正明 久我正明
【佳作】蝸牛悪気なけれど角立つる 桃源郷桃に袋を掛けてみる かたつむり角の出るとき雫めく	工藤泰子 工藤泰子 工藤泰子
【佳作】哲学と同じ味かも冷奴 無職とてけふも多忙や芥子坊主	倉方 稔 倉方 稔
【佳作】二度も三度も盗られるなんてさくらんぼ さくらんぼ挽げず脚立にしがみつ	黒田忠一 黒田忠一
部長席ひときわ大き花氷 並び立つソフトクリーム野辺の墓	小杉 隆 小杉 隆
躰糸とれて乱るる夏の蝶 男など知らぬふりしてゐる素足	小林英昭 小林英昭
【佳作】驚いた患者の手首にバーコード ママチャリでいざわが避暑地図書館へ 年金を注ぎ込ませてる田と畑	齋藤八兵衛 齋藤八兵衛 齋藤八兵衛
【佳作】サングラス裏の人生ありにけり 乙女らの切った貼ったの海水着 走馬灯あばれ仏の怒りかな	酒井鹿洋 酒井鹿洋 酒井鹿洋
【佳作】太陽を蹴飛ばしている海月かな 深追いはしない海辺の遠花火 それぞれの二人のその後ソーダ水	坂本牧子 坂本牧子 坂本牧子
【佳作】熱中症縁台将棋死後とせり 捨て場なき暑さに行き場ひとつの老 夏ばてに黒酢がよしと下り腹	桜井宇久夫 桜井宇久夫 桜井宇久夫
【佳作】父の日の泣き顔天下一の父 女わらべが頼付け父の力瘤 烏枢沙摩と罔象に任す裸っ子	佐藤古城 佐藤古城 佐藤古城
【佳作】早乙女を支へて立人御神田祭 去年は雨今年は猛暑御田植祭 泥んこになり竹奪ひ合ふ男たち	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】サクラコの厭ふマリコモ来て緑陰 女装子の声の甘やか夏暖簾 ビール干せり水平線を傾けて	猿渡 仁 猿渡 仁 猿渡 仁
【佳作】大空を捨てたペンギン夏の潮 立枯のルピナス種を抱きけり 一枚の夕焼けはじく棚田あり	澤田篤恵 澤田篤恵 澤田篤恵

今月の特選句・秀逸句 / 「今月の滑稽句」

	子燕に目立ちたがりがをりにけり 完璧な亭主といはず新茶淹れ	塩川雄三 塩川雄三
【佳作】	楊梅の身を持って余す大樹かな 夏袴もんぺカジュアル現代娘 内定と梅雨跳ねのける孫のTEL	柴田真一 柴田真一 柴田真一
【佳作】	水喧嘩妻の化粧に及びけり 紙魚跡と見紛ふ程の預金利子 福耳にして清貧の人涼し	清水吞舟 清水吞舟 清水吞舟
	不覚にも涎に溺る午睡かな 炎天に我慢の意志をたまひけり	下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】	小指立て大ジョッキ持つ大男 箸一本難儀してゐる心太 仏滅の今日とも知らず巣立つ鳥	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
	ダイエット三日で破り心太 あっさりと背中晒して髪洗ふ	白井道義 白井道義
【佳作】	蔓どこまでも伸び目はキューリ あれから四ヶ月黙って首振る扇風機 膝さえ治れば暑さなんかケセラセラ	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	小ばちには竹の子ちくわ煮物かな 夕焼けやコーヒーのんでケーキたべ ケロケロと田んぼの中で蛙鳴く	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	だからってからまないでよ花茨 B・Bの胸M・Mの脚日雷 合いの手を三光鳥がホイと入れ	鈴木みのり 鈴木みのり 鈴木みのり
【佳作】	これやこの涼しさありき坊主刈 涼しさは初恋の味坊主刈 糊代を余生と呼ぶか百日紅	高須峰生 高須峰生 高須峰生
【佳作】	御捻りに本性出たり夏芝居 万緑や氏神様は知らぬ顔 五月病恋煩いも入れておき	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	ゴキブリや姿くらしネオン街 ゴキブリや喧嘩の訳も忘れたる ゴキブリと向き合っている四畳半	高橋マキコ 高橋マキコ 高橋マキコ
【佳作】	見覚えし日傘撫で肩人混みに ガリバーのごと蚯蚓の蟻に引かれゆく 七変化半世紀振り同窓会	高橋 都 高橋 都 高橋 都
【佳作】	抱かれ枕に抱かれて干され竹夫人 仏滅の婚礼おそらくは狐 心身の悶はずし更衣	高橋素子 高橋素子 高橋素子
【佳作】	ひるがへるつばめの子のトレーニング U・F・Oの使ひになるや朴の花 大の字にマンタの背中昼寝覚	田中章子 田中章子 田中章子
【佳作】	滴るや己の才を信じた日 夏服や文語のしには注視する 夏山や虚空蔵菩薩に詣る	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	梅雨の蝶口ダンの像となりてをり 鉄砲百合睨みを四方に放ちをり ネーム入り鞆を忘れて窃盗人	田中早苗 田中早苗 田中早苗
【佳作】	半夏生気ままに時を過ごしぬる 曳き売りの声に釣られて冷奴 バーゲンまで待とうと睨み夏帽子	谷むつみ 谷むつみ 谷むつみ
【佳作】	哲学書食らひて紙魚のソクラテス 浮き人形尻の下から浮上せり 動かぬと決めた頑固な江戸風鈴	種谷良二 種谷良二 種谷良二

今月の特選句・秀逸句 / 「今月の滑稽句」

水馬水車に乗つて目を回す 【佳作】 サングラスとれば泣く子も黙る顔 虫干の大半妻のものなりし	田村米生 田村米生 田村米生
ごきぶりはあってもくわがたのない歳時記 縁切り寺でラムネ飲む誤嚥のないように	土居忠行 土居忠行
夏瘦てふ言葉を捜す古語辞典 【佳作】 甚平を着て様になる齢かな 帰省子の生水飲めぬ故郷かな	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
人肌に温もれる墓洗ふかな 踊の輪窄めば開く下駄の音 【佳作】 生身魂何かにつけてしゃしゃりでて	永島董玉 永島董玉 永島董玉
【佳作】 ポケットがちぎれていますひばりの忌 真夜中の呻き出したる冷蔵庫 わたくしと紙魚は同性艶双紙	西をさむ 西をさむ 西をさむ
夕へガタキヲタヘテシノビテ氷水 昼寝して迷子となりし銀河系	原田 嘩 原田 嘩
堤燈はハリセンボンや針供養 海霧湧くや行方真つ白岬の道 【佳作】 冷や汗を流す冷水浴びにけり	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
龍四つ六十四画明け易し まだ半分眠ってをりぬ山清水 【佳作】 かき氷今も昔の莓味	彦阪義久 彦阪義久 彦阪義久
【佳作】 八十の婆に拾はれ落し文 畦道を出前が走る田植どき 芭蕉より曾良の膝請ふ山の蟻	久松久子 久松久子 久松久子
ITの世に無関心蝸牛 【佳作】 目くばせのやうに点滅恋蛩 頂上をスプーンに載せてかき氷	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】 ひとつづつ一期一会の莓かな 萍の濫に殖えて漂へず 熱帯化企みてをる熱帯魚	広瀬雅幸 広瀬雅幸 広瀬雅幸
【佳作】 大盃遊び女になる屑金魚 たこ焼きの鉄板脂油照 立飛込みの黒髪の浮く河童	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
はつなつの鼻毛のびのびのびてゆく 【佳作】 梅雨に入る皆ずい分くたびれて 風吹けばゆれてみるだけ夏柳	藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉
【佳作】 泣きたいをこらへて笑ひ暴れ梅雨 まだ寝てるバラの布団の青ガエル 半分はみどりのままの落し文	藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子
嘯み合はぬ話ばかりでお茶が冷め 金持ちは招待しない秘密基地 【佳作】 キャンブルに泣いた母見る蓬餅	古野セキエ 古野セキエ 古野セキエ
理髪師の手元狂わす暑さかな 【佳作】 大の字がくの字になりて昼寝せり 興にのりケンカをあある団扇かな	松尾軍治 松尾軍治 松尾軍治
放射能ひと事になる老いの夏 緑陰にカップル満ちて不貞寝あり 【佳作】 夕立の殺気秘めたる無料かな	丸山紘一 丸山紘一 丸山紘一
紙魚数多いよよ記憶の遠のけり ばらばらとばらばらと薔薇散れる	三木蒼生 三木蒼生

今月の特選句・秀逸句 / 「今月の滑稽句」

病葉や話に花の待ち時間 【佳作】公然と口重ね合い夏鴉 結局は着ることのない水着出す	三塚不二 三塚不二 三塚不二
【佳作】ぶわわぶわぶわわぶわわぶわわしゃぼんだま 枕木のごとき濃影の並木ゆく ラジオ体操仰ぐキャンパスは夏の色	三橋一笑 三橋一笑 三橋一笑
黄菖蒲や風にへらへら笑ってる 【佳作】蛙の子おのれの影に腹を置き 山梔子の花あると決め風上へ	村上美和 村上美和 村上美和
梅雨寒や被曝の街を煙らせて 夕風に心がそよぐ水中花 【佳作】梅雨晴や次女は長女を越して嫁す	百千草 百千草 百千草
さつきあめ水田をくすぐり走るかな 【佳作】手囲ひのほたるの余熱手に甘し 梅の実の数を数えずもぎにけり	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
ちちの日にぢぢもちちだと乾杯だ 誘えども湿っこいわの雨季夜かな 【佳作】サマジャンボ当たれば嬉しい離婚だべ	森 要 森 要 森 要
血を吸ひにくる蚊血液型問はず 夏シャツの国会本気には見えず 【佳作】メートル法で九十九センチ寝をしてをりぬ アナログにこだはつてゐる時計草 皺にお値打爺の顔と麻の服	守屋八郎 守屋八郎 八木 健 八木 健 八木 健
万緑や満貫夢見し緑一色 【佳作】部屋いっぱい蟻湧き流る湯水ごと 利きし手は左なりして新酒酌む	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
蚊遣香女難の相を遠ざけて 【佳作】どう見ても散らかすだけのお虫干し サングラス星の王子になりたくて	柳 紅生 柳 紅生 柳 紅生
童心にかえりしラムネ十円で～す 登山好き「元気現金」の夫入院 【佳作】梅雨入りや混沌原発猿軍団	柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子
【佳作】新緑ドレス御山は御日様とダンス 初夏はじめてのバンザイいただきます 飯廬のますます重しかたつむり	山下正純 山下正純 山下正純
そよそよとよそよそしくて金魚かな 【佳作】風鈴の舌も纏れてあたりけり 万緑や甲羅のやうな子のリュック	山本あかね 山本あかね 山本あかね
【佳作】夏大根の想定外の辛さ鼻つまむ 鴉カアカア雀チュンチュン梅雨晴れ間 放射能が怖くて傘をさすトマト	山本けい子 山本けい子 山本けい子
蜘蛛の巣を毀した夜の蜘蛛の夢 【佳作】鉄線花そんなに赤子揺らしては 絵日記に書かれてしまふ夏休	山本 賜 山本 賜 山本 賜
扇風機これ見よがしに首廻す クールビズすててこ日本に大手振る	横山喜三郎 横山喜三郎
【佳作】でで蟲が甲羅干しする梅雨晴間 梅雨空に目には見えねど放射能 梅漬くる節くれ立ちし妻の指	渡辺さだを 渡辺さだを 渡辺さだを